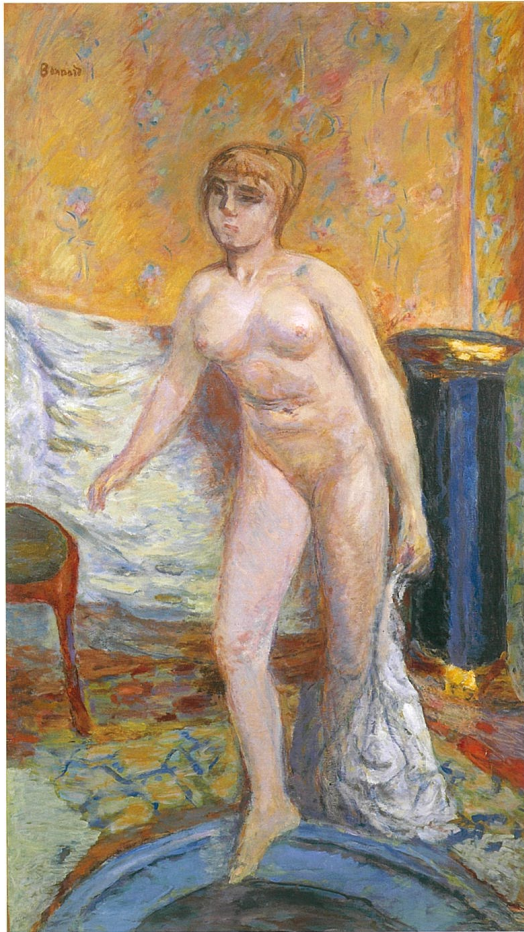


# グリーンルーフ

鹿児島市立美術館だより

館蔵品誌上ギャラリー⑦



ピエール・ボナール  
「浴室の裸婦」  
1914年頃

## 鹿児島市立美術館

〒892-0853  
鹿児島市城山町4-36  
TEL. (099) 224-3400  
FAX. (099) 224-3409



Kagoshima City Museum of Art

## 表紙の作品

ピエール・ボナール「浴室の裸婦」  
1914年頃、油彩・キャンヴァス、142.0×80.0cm

ボナールは日常生活のさりげない情景を描き続けたが、なかでも浴室で身づくろいする裸婦は彼の画業全体を貫く重要なテーマであった。そのモデルとなったのが本作品にも描かれている妻のマルトである。

二人の出会いは1893年にさかのぼる。たまたまモンマルトル界隈の通りを横切ろうとしていたマルトに手を貸してやったのが、そのきっかけであったという。玉飾りの工場で働いていたこの少女は、病気がちでひどい人見知りをするたちであった。そんなマルトにボナールは深い愛情を注ぐ。実際に入籍するのは1925年になってからであるが、二人の親密な関係はマルトが1942年に亡くなるまで変わることはなかった。

常にマルトに寄り添って生活していたボナールは、必然的に外部との接触が少なくなる。ボナールがその絵画世界を静かに深めることができた背景にはマルトの存在が大きかったといえるだろう。

本作品では、浴槽に足を入れようとするマルトが正面から堂々と描かれている。このようなモニュメンタルな構図はこの時期の裸婦像にしばしばみられる。当時ボナールは色彩のために形態と構図を犠牲にしてきたという思いにとらわれる。制作上の危機を感じていたのであるが、それを修正するために本図のように構成に注意を払った作品を描くのである。しかし本図にはやはりボナールらしい柔らかな光と色彩が満ちていて、マルトをやさしく包みこんでいる。